平成２４年第５回室蘭市社会教育委員の会定例会会議録（要旨）	
日　　時	平成２４年１０月４日（木）　１０時～１１時３０分
場　　所	２階大会議室
出席委員	松岡委員長、越谷委員、中塚委員、中野委員、中村委員、平林委員、 増川委員、余語委員
欠席委員	亀田副委員長、若佐委員
事 務 局	山田教育長、松村教育部長、山本課長、高木課長、矢元主幹、佐々木主幹、山下館長、真野主幹、内山生涯学習推進アドバイザー、石井主査、佐藤主事

＜議事報告＞

【日程１】　室蘭市男女平等参画推進市民会議について

前田書記から「室蘭市男女平等参画推進市民会議」について市民会議設立の経緯やこれまでの主な活動、そして今後の課題などを説明した。

（質疑応答）

（Ａ委員）　アンケートを実施したとのことだが、アンケートはどのように評価しているのか。

（市民会議）　基本計画の施策について大いに成果が出ているという回答が５点、成果があると感じるという回答が３点、成果が出ているとは感じられないという回答が１点、まだ取り組んでいないもしくは分からないという回答を０点でポイント化した。

（Ａ委員）　０点と１点の間には非常に大きな差があると思う。点数化していただけるのは非常に見やすくなり、ありがたいのだが、実態が見えてこないという面もある。０点の比率が大きいものというのは例え点数が高くてもその問題に関心がない人が多いという事であり、例えばＤＶ問題などは件数が少なくても放置できない問題であり、集計には５点をつけた人は何人などと内訳をつけるとより良いのではないだろうか。

（市民会議）　これまでのアンケートでも集計は可能なので今後参考にしていきたい。

（Ｂ委員）　今後の課題に欠席委員に参加を呼びかけていくとあるが、どの程度の方が欠席されているのか。

（市民会議）　２か月に１度の例会で、毎回１０名程度欠席者がいる。参加は任意なので強制はしていないが、団体から参加されている場合は仕事などもあるため、欠席が多くなってしまっている。

（Ｂ委員）　団体からの参加も必要な事だとは思う。参加してくれる人を団体から出していただくのが一番良いと思うが。

（市民会議）　多くのネットワークを築くのは大切なので、欠席が多いから別の団体というわけでなく、参加を促していきたい。

（Ａ委員）　参加の回数というのはその団体の意識の高さがどの程度かを表していると思う。要請があったから参加した人、特に男性は、アウェー感というか敵地という感覚があり、それでもその場に参加するというのはよほど意識の高い人か度胸のある人に限定されてくる。市民会議では様々な催しをおこなって

いるとのことだが、参加するのはそのような人が多いと思うので、参加の少ない団体に出前講座のような形で要請していき、意識啓発を図ることも重要だと思う。

（市民会議）　ぜひとも出前講座をお願いしてまいりたい。アウェーという単語が出てきたが、審議会・委員会で女性が少ないというのはまさにそういったことで、どこまで女性視点の意見を出せているのか分からないが、政策決定の場に女性が増えていく事を望んでいる。

（Ａ委員）　男女平等の意識啓発は若い人には進んでおり、ここ２，３年で室蘭も様変わりしていると感じる。ところが、経営者まで行くとなかなか意識啓発は進んでおらず、若い男性などは上司からは家庭について理解を得られず、家庭に戻れば妻になぜ家庭を顧みないのかと責められ、板挟みのような状態になっている。家庭をサポートするには経営者の負担もあることだから、行政からの支援は欠かせないものではないだろうか。

（市民会議）　男女平等参画は女性が楽になるためという事ではなく、男性にとっても利益になるように行われていくべきである。これから２期計画の策定があるが、行政が主導するでも、市民が主導するでもなく、今ある計画を基本に足りない所は補い、さらに加える必要のある部分は加えていけるよう、これからも市民と行政の協働を市民側から働きかけていきたい。

【日程２】

報告第１号　指定管理者施設における管理運営評価について

（事務局）事務局より説明した。

（質疑応答　なし）

【日程３】

報告第２号　室蘭市芸術文化表彰について

（事務局）事務局より説明した。

（質疑応答　なし）

【日程４】

報告第３号　室蘭市スポーツ表彰について

（事務局）事務局より説明した。

（質疑応答　なし）

【日程５】

報告第４号　室蘭市青少年及び青少年育成者表彰について

（事務局）事務局より説明した。

（質疑応答　なし）

【日程６】

報告第５号　１０月・１１月行事予定について

（事務局）事務局より説明した。

（質疑応答　なし）

その他

（事務局）港の文学館移転について事務局より説明した。

（質疑応答）

（Ａ委員）　今回無償賃借という事で、今後の修繕は行政側が行う事と思うが、その額によっては現施設を継続して使う方が安価で済むという事もあると思う。そのあたりについて、(株)カナモトと協議しているのか。

（事務局）　施設的な面、例えば屋上の防水や機器の点検などは移転前に（株）カナモトが実施するという事で話を進めており、文学館としての機能、例えば書架などは行政側が負担する。修繕については現施設でも当然必要となるものであり、施設の新しさを考えると移転後の方が負担は少ないものと考えている。

（事務局）平成２４年第１回室蘭市議会定例会について事務局より説明した。

（質疑応答　なし）

（事務局）第５２回北海道社会教育研究大会（胆振大会）兼全国社会教育委員連合北海道ブロック大会について事務局より説明した。